

大学院（地域医療教育学分野）

地域医療教育学分野では「地域医療・総合診療・家庭医療、医学教育分野の領域において、研究テーマの設定、研究の計画・実施、結果解析、論文発表のプロセスの実践を通して、独立して研究を実施・指導できる能力を修得する」ことを教育目標として、リサーチセミナー、研究ワークショップ、フレッシュマンセミナーを開催しました。

リサーチセミナーは毎週金曜日14:30-17:30、地域医療システム研究棟2F討議室にて開催しました。内容は、研究計画検討および進捗報告、関連論文の抄読会を行いました。研究ワークショップは研究手法を集中的に学べる半日～1日コースのワークショップとして2回実施しました（詳細は研究ワークショップの項参照）。フレッシュマンセミナーは、研究の基本について、演習を通して実践的に学ぶことを目的として今年度より導入したもので、(25年度は統計学の基本)平成25年12月14日に低学年の大学院生を対象に開催しました。

25年度は博士課程に5名の大学院生が入学し、リサーチセミナーがさらに活気に満ちたものとなりました。また、昨年度から引き続き6月までの約6ヶ月間、新医学専攻学生の梶川奈月さんが、地域医療教育学分野での研究に取り組みました。大変優秀な学生さんで、研究計画立案から倫理委員会を経て研究実施、研究成果について学会発表、英文論文執筆までのすべてのプロセスに取り組み、大きな刺激を受けることができました。また、研究指導医として10月より佐藤幹也先生を迎え、指導体制も充実しました。

今年度は、平成21年2月に開設された本教室の第1期生である22年度博士課程入学生3名が4年次に進級し、また、3年次の鈴木広道先生が早期修了を目指し、4名が本教室初となる学位審査に臨みました。学位審査は、大学院で取り組んできた研究成果について **Dissertation** 形式の学位論文を作成し審査を受けるもので、学位申請にあたっては参考論文が英文誌に筆頭で受理されていることが条件となります。英文参考論文アクセプトまでの道、**Dissertation** 執筆、いずれもとても厳しい道だとは思いますが、ご努力の結果が実り、最終的に4名全員が合格となり、本教室から初の博士（医学）が誕生しました。入学時から全ての行程が初めてづくしの第1期生にとって、この4年間は苦労の連続だったと思いますが、全員が学位を取得されたことは、教室の大きな自信となりました。後に続く後輩にとっても大きな励みになったことと思います。

今後も、プライマリ・ケアの現場からの疑問を科学的手法を用いて明らかにし、現場で役立つエビデンスを広く発信し、プライマリ・ケア、地域医療に貢献することを目指していきたいと思えます。

リサーチセミナーメンバー

< **Trainer** >

前野哲博、釋文雄、高屋敷明由美、前野貴美
徳田安春
佐藤幹也（10月～）

< **Trainer Support** >

堤円香

< Trainee >

大学院生

博士課程

4年次 栗原宏、高木博、中澤一弘

3年次 伊藤慎、河村由吏可、鈴木広道、宮澤麻子

2年次 木下賢輔

1年次 小曾根早知子、片岡義裕、後藤亮平、斉藤さやか、吉澤新太郎

修士課程

2年次 皆吉智之

< スタッフ >

阪本直人、浜野淳、横谷省治

< 病院登録医 >

渡辺裕美 (在宅緩和ケアクリニックきずな)



フレッシュマンセミナー



学位取得おめでとうございます！



学位取得までの険しい道を支えてくださった秘書の谷さんに、金の感謝状が贈られました

(地域医療教育学分野 前野貴美)